シアトルの歴史地区におけるコミュニティ保全思想の提起とその背景
THE EMERGENCE OF THE NEIGHBORHOOD CONSERVATION IDEAS
IN THE HISTORIC DISTRICT OF SEATTLE

阿部 祐子*

Yuko ABE

The purpose of this study is to explore the preservation concepts of the Pike Place Market Historic District in Seattle, which was one of the earliest examples in the U.S. that included ideas of neighborhood conservation. To analyze the way to raise the concepts I studied the ideas and opinions expressed by the citizens' group advocating to preserve the district, especially by Victor Steinbrueck (1911-1985), an architect and the leader of the group.

The study shows that the preservation concepts based on Steinbrueck's socialism and regionalism were emphasized more clearly through a criticism on gentrification after the late 1960s. At that time Pioneer Square District, another historic district in the downtown, had succeeded in revitalizing by adaptive reuse of historic buildings, but at the same time low-income residents were forced out by steadily rising land prices and rents. Concerning that the communities around the Market would be lost for the same reason, Steinbrueck and other activists insisted to maintain communities and their activities as well as to preserve the market buildings. Thus the neighborhood conservation ideas were raised from a criticism against not only the urban renewal plan but also the historic preservation project that aim primarily to vitalize real estate market, and after the 1970s, such ideas were adopted in historic preservation policies of Seattle and other American cities.

Keywords : *Historic Preservation, Neighborhood conservation, Victor Steinbrueck, Seattle*

歴史保全, 近隣地区保全, ヴィクター・スタインブルック, シアトル

1. はじめに

シアトル市では、1963年にダウンタウン再開発計画が策定された直後から、中心商業地区に隣接する2つの歴史的地区において保全運動が展開された。1970年に歴史地区として登録されたパイオニア・スクエア地区¹⁾と1971年登録のバイク・プレイス・マーケット地区²⁾(以下「マーケット地区」と記す)である。この運動後、シアトル市は歴史保全を都市政策として積極的に展開し、その分野での先進都市と認識されるようになった³⁾。特に後者のマーケット地区では、建造物等の物的環境のみではなく、地区内の商活動や低所得者住宅の維持を規定しており、コミュニティの社会的特性も包括した保全のあり方を提起した例としても評価されている⁴⁾。このような近隣地区保全(=Neighborhood Conservation)の考え方は1970年代中期以降米国の歴史地区における重要課題であり⁵⁾、同国の歴史保全の特徴を把握するための一助として、本論は1964年から1971年までのシアトルの保全運動における論点の分析を中心として、この思想が提起された経緯と背景を検証するものである⁶⁾。

2. 研究の概要

シアトルの2歴史地区に関連する文献のうち代表的なものとして、マーケット地区の通史であるShorett & Morgan (1982 & 2007)⁷⁾、1960年代の保全運動の記録であるBrewster (1981)⁸⁾があるが、

これらは事実関係の記録であり、歴史保全の観点からの分析ではない。近年の研究としては、2歴史地区の保全運動とダウンタウン都市政策転換の関連を政治的・社会的に分析したLee (2001)⁹⁾がある。これは、歴史地区設立の経緯を政治・行政の観点から分析し、保全運動の都市政策上の位置づけを論じているが¹⁰⁾、歴史保全のあり方に関する議論には触れていない¹¹⁾。

そこで本論では、マーケット地区保全運動のリーダーであり、パイオニア・スクエア地区の史跡指定にも深く関与した、建築家ヴィクター・スタインブルック(=Victor Steinbrueck, 1911-85)の思想を基に、保全理念の形成過程を分析するものである。研究対象は、同建築家の著述・発言¹²⁾、ワシントン大学図書館及びシアトル市公文書館が所蔵する保全運動関連資料等¹³⁾から、保全のあり方に関する議論の推移を検証する。以下、3.では保全運動の基礎となったスタインブルックの建築観・歴史保全観、4.では保全運動における論点の変遷の過程、5.では運動を通して近隣地区保全が提起された背景についてそれぞれ分析し、6.に理念形成の経緯をまとめ同国の歴史保全における位置づけを考察する。

3. 建築の評価及び保全に関する基本姿勢

シアトルでは1953年に初の建築史解説書¹⁴⁾が発刊され、地域建築に対する関心が高まっていった¹⁵⁾。さらに1950年代後半に

* 東京大学産学連携本部 特任専門員・工博

Program Officer, Division of University Corporate Relations, University of Tokyo, Dr. Eng.

は、行政による高速道路建設や都市再開発計画に対抗して、建築家達による自然環境・居住環境保全運動が拡大し、地域の環境特性の保全が論争の対象となった。その中で、解説書の著者でもあるスタインブルックは、都市・建築評論を通して建造物保存に関して積極的に発言し、シアトルに相応しい歴史保全の推進を主張した。マーケット地区の保全運動が始まる以前の作品、著作、発言からはその基本となる考え方が把握でき、それが後年の保全理念の提起につながっていったと考えられる。

これらの分析を通して、他の地域建築家と比べ特徴的な思想としてまず指摘できるのは、建造物の「人間的価値 (=human value)」の尊重、及びそれを基準とした建造物保存を提案したことである。「人間的価値」とは、コミュニティへの貢献や市民の生活環境との関連など、建築の機能的・社会的・環境的側面の評価である。

それを重視する姿勢は彼の設計作品にみられる。例えば、1940年代から50年代には労働者向けの住宅など小規模・廉価な建築を多く設計し、そこには一般労働者の生活向上という社会主義的志向がみられる¹⁶⁾。建築評論においても、1959年から約3年間続けられた地方紙のコラム¹⁷⁾で、特に開拓期の労働者住居の機能的価値に言及するなど、建築物を形態のみでなく、そこに存在する居住者の生活形態やコミュニティとの関連から一体的に評価する視点が見られる。そして、1962年の著書でこれについて「人間的価値」という言葉で定義している¹⁸⁾。

このような建築と市民生活との関連性を重視する視点は、建造物の保存にも適用された。後年の述懐¹⁹⁾において「建造物は周辺の環境やそれが存在する近隣地区のために設計されるべきである。個別のものとして設計するのではない。(中略)近隣地区から建造物を取り除く前にも同様の検討が必要である」と述べており、建造物の環境やコミュニティにおける存在意義を保存への判断基準とすべきという考え方を示している。このような「人間的価値」重視の姿勢は晩年まで変わらず²⁰⁾、保全運動を通してより強固なものとなった。

もう1つの特徴として、建造物は他都市で設定された価値基準ではなくシアトル市民にとっての価値に基づいて評価・保全されるべきであると主張していることが挙げられる。後に『「古さ (=antiquity)」は相対的なもの」という表現を用いて主張したように²¹⁾、西海岸の都市の歴史は短くても、地域住民にとって価値ある歴史資源の存在を訴えている。そして、歴史的建造物の価値は他都市での基準に従うのではなく、独自の価値観に基づいて評価すべきであることを主張している。

例えば、開拓時代の消防署や簡易宿泊所の保全運動²²⁾、あるいは庶民に安価な食品を提供する公設市場であるパイク・プレイス・マーケットへの高い評価など、都市固有の歴史を表す建造物を重視する中に彼の価値観を見ることができる。また、パイオニア・スクエア地区についても、「(国内他都市と)比較すれば優れた建築ではない」ことを認めながら、都市発祥の地として開拓時の歴史を示すものとしての重要性を主張している²³⁾。このような地域主義的な視点に基づき、従来の政治史や建国史の象徴のみではなく、庶民の生活史に深く関わった建造物・構造物へと保全対象が拡大した。

建築の社会的意義や都市の独自性を尊重した彼の論説は、地域の既存住民のみでなく、第二次世界大戦後に移住してきた新規住民の賛同も得るようになり、1960年代後半に展開された保全論争を通し

て、シアトルの歴史保全の特徴を形成する基本的思想となった。

4. マーケット地区の保全理念の形成過程

1964年11月から約7年に亘るマーケット地区の保全運動を通して、スタインブルック率いる保全運動団体フレンズ・オブ・マーケット（以下「FOM」と記す）は「何が重要か」「何を保全すべきか」という議論を行政機関や経済団体等と戦わせており、それがこの地区の保全理念に大きな影響を与えた。本章では、保全運動に関する記録記事、及び保全団体による書簡・声明文・記者発表、及び関連するスタインブルックの著述・発言等を基に、論点がどのように推移し保全理念として提起されたか、その形成過程を検証する。

保全運動の記録資料の分析から、パイク・プレイス・マーケット地区保全運動は大きく3つの段階に分けられることがわかる²⁴⁾。

①1964年～1967年：マーケット存続にむけて、市民の関心喚起・保全への賛同者獲得活動の展開。

②1968年～1969年：行政による中核建造物のみの再生・再利用案提示を機に、「保全か取り壊しか」の議論から「何をどのように保全すべきか」という論争に発展。

③1970年～1971年：歴史地区指定に向けての政治的・司法的闘争の展開。

この中でFOMの発信は、①の期間には市民に向けての公設市場と地区の魅力を人々の訴えるものが多く²⁵⁾、②の期間には行政案に対抗するための地区特性の解釈と保全のあり方に関する主張が多い²⁶⁾。一方、③の期間は法的手続に関する政治的議論であり、保存理念に係る部分は少ない²⁷⁾。そのため、ここでは①、②の期間を中心に、地区特性の評価とそれを反映した保全理念に関して論じる。

保全運動以前のものとして、シアトル・シティスケープ（1962年発行）における解説²⁸⁾では、「特にユニークで、華やかで全ての感性を刺激する場」と評し、「我が国で最も楽しくピクチャレスクなショッピング街の1つ」として、それを構成する多様な人々、商店、商品などを紹介しており、この時点では、これらを視覚的要素として客観的に観察しているのがわかる。

さらに運動初期には、1965年の新聞連載コラム²⁹⁾などにおいて、庶民に廉価な食品を提供するために創設され、誰にも開かれた販売システムを維持してきたことなど、シアトルの生活史における重要性を述べている。同様に、1967年の雑誌記事³⁰⁾には、地区保全の意義として「廉価な商品の提供」という機能をあげ、保全運動の進行と共に、生活支援という機能的側面に関する評価が見られる。

1968年3月に市が発表した地区再開発計画案は、市場の中核建造物数棟を保存し、内部をショッピング・センターとして再利用するという案³¹⁾であった。これに対しFOMは、批判と代替案作成への要求を求めた声明³²⁾を発信しており、この内容は運動の論点が「市場の保存」から「何をどのように残すべきか」という保全のあり方に変化したことを示している。この声明の中で、「マーケットは我々が守りたいと考えているものの覆いに過ぎない」という主張が示され、低所得層対象の食品市場としての機能とそれを構成する商店や販売システム等の維持を訴えている。さらに、

市場の中核建造物の保存のみでなく、機能的・社会的に市場との関連が深い周辺地区を包括した保全を求めており、保全対象の拡大が見られる³³⁾。

1968年に発刊された著書『マーケット・スケッチブック』³⁴⁾では、地区の視覚的・景観的特徴とともに、そこで働く人々やその商品、及び来訪者の活動が解説されている。市場として保全すべきものとして建築・空間・人間を等価の要素として扱っており³⁵⁾、特に人々の活動について、前著「シアトル・シティスケープ」よりも詳細かつ深い分析がなされている。さらに、マーケットとそれを取り巻く周辺エリアとの関連についても分析し、市民の日常的な買い物や娯楽の場として両者が不可分であることを強調している³⁶⁾。同年の地方紙の取材には³⁷⁾、「重要なのはマーケットにおける社会的融合と人々の空間体験である」と述べ、空間的特質と人々の活動の総合的な評価と保全の必要性を強調している。

1969年以降になると、建築・空間よりも人間活動に重心が移り、地区の商店・住宅の維持を最優先とする主張が鮮明になっていった。例えば、1969年2月の専門誌への投稿記事³⁸⁾では、喪失が懸念される市場周辺の商店・事業者、地区住民の保護、及び低価格の食品を消費者に提供する商システムの維持に関する主張が中心となっている。同年3月の新聞記事³⁹⁾には「マーケットを守ることはただ建造物を守るのではなく『我々の関心は人間の活動だ』」と述べ、同様に4月のFOMの投稿記事⁴⁰⁾には「歴史保全は単に『年期の入った外見』を云々するものではなく、人々の活動や文化に関わるものである」と記すなど、論争の焦点は建造物から地区の商店・利用者・居住者とその活動へと完全に移行していることがわかる。

また、同月の取材記事⁴¹⁾では、「パイク・プレイス・マーケット地区の600人近い住民は『多かれ少なかれエリアに満足しており、選んでそこに住んでいる。(中略)再生計画は適切な住宅を供給し、そして現計画案のような破壊的な変化を与えないものである(べきだ)』」と述べ、同6月の雑誌記事⁴²⁾では市の計画案における周辺住民・小規模商店排除の可能性を強く批判している。これらは人々の活動の中でも特に市場周辺住民とその生活環境の保護が主眼となったことを示している。

このように、保全対象に関する議論は、初期には建造物と空間で構成される視覚的要素、人々の交流の場としての魅力など、都市空間としての価値評価から始まり、徐々に廉価な食品の提供、あるいは小規模事業者の育成等の都市機能としての評価へと拡大した。さらに、所得・階層を超えた融合や低所得者居住区としての社会的意義の評価へと移行し、論争の焦点も建造物群から市場の商形態、そして既存コミュニティの維持へと変遷した。

1970年にFOMは、市場の中心建造物群のみでなく、市場機能と強い関連を持つ周辺地区の商店と住宅群を包括した保全区域の指定を求め、最小限の指定に留めようとする行政⁴³⁾との法的闘争を展開した。結果として、1971年11月に市民投票⁴⁴⁾によってその要求は達成された。

スタインブルックとFOMの主張は、歴史地区条例に反映され、物理的環境の保存基準となる『デザイン』と、空間用途・販売形態・商品内容等を規定する『用途(=use)』の2部からなるガイドライン策定⁴⁵⁾へとつながった。後者では、農家による直接販売という商形態の維持や低所得者対象の商店・住宅の確保などを規定しており、

地区の社会的・経済的特質の総合的な保全・強化を図っている。

5. 地区高級化(=gentrification)批判と近隣地区保全の提起

前章に述べたように、1968年に市の最終計画案が発表されて以後、スタインブルック率いるFOMは地区の活動やコミュニティ特性など、社会的・経済的側面を包括した保全理念を掲げるようになった。このような保全の論点が拡大した背景として、当時のダウンタウンの社会状況があると考えられる。

前述の通り、スタインブルックは建築の持つ市民生活やコミュニティに果たす機能的・社会的意義を重んじ、都市内の労働者や社会的弱者の生活環境に対して強い関心を持っていた。特に、2つの歴史地区とそれらを結ぶファースト通り沿道は、開拓時代から続く低所得層向けの商店や住宅が集積するエリアであり、この地区の保全については、都市更新事業(=urban renewal)計画が具体化した1960年代初頭から多くの発信を行っている。例えば、1966年5月の新聞記事⁴⁶⁾では労働者居住区を大きく改変する計画を批判し、歴史的建造物の保全などを通じた住居や小規模商店の維持と生活環境向上が「真の都市更新」であると述べている。

このような1960年代中期までの発信は、大規模再開発に対する批判であり、「破壊」に対する「保全」への主張であるが、1960年代後期になり、パイオニア・スクエア地区での歴史的建造物群の再生・再利用が進むとともに、その批判の対象は変化していく。

パイオニア・スクエア地区では、1963年の計画によって都市更新事業による再開発が計画されていたが、一方で1964年から建築家やデベロッパー等のグループが自主的に建造物を買取り修復して、新たなテナントを誘致するという活動を進めていた⁴⁷⁾。市長と市議会が再開発事業の主導権を巡って対立し計画実施が遅れる中⁴⁸⁾、建築家グループによる修復事業は進み、歴史的建造物の再生が地区の経済活性化にも有効であることを証明した。それを受け、地権者等の賛同もあり、1967年には市も歴史地区設立への検討を開始した⁴⁹⁾。

同地区では建造物群の外観を修復・復元し、内部を改修して新たな機能に供する手法、アダプティブ・リユース(=adaptive reuse)を広範囲に適用した例として、全米的にも高く評価されている⁵⁰⁾。19世紀末の石造建造物は建築家・弁護士等の事務所、店舗、中高級アパートに再利用され、それによって不動産価値は急速に高まり、地区再生は成功したように見えた。

しかし一方で、この地区に居住していた低所得層やそれを対象とした商店は、改修に伴う移転要請や賃料の高騰のために地区からの転出を余儀なくされた。1960年から1968年に間に同地区の既存人口の多くが流出し⁵¹⁾、保全活動が開始される以前と歴史地区設立の検討が始められた時点とでは住民・事業者が大きく入れ替わった。つまり、低所得層の住民にとっては、歴史的建造物群の再生によっても生活を圧迫されるという状況が生まれた。

都市更新事業のみでなく歴史保全活動によっても低所得居住者の排除が起こる可能性があるということは、スタインブルックをはじめ保全運動家の問題意識を高めた。1967年7月のパイオニア・スクエア地区の都市更新計画に関する地方紙の取材⁵²⁾に対して、「人々の(のための)改善が最初であり、建造物の再生はそれからだ」と述べ、既存居住者の住環境改善の優先を訴えている。

そして、1968年以降、ファースト通り、マーケット地区等ダウンタウンの労働者居住区の高級化を問題視する著述・発言が多くみられ⁵³⁾、彼の懸念の大きさを示しているといえる。

さらに、スタインブルックの運動を補佐した建築家オーリンは、1969年にダウンタウン内の低所得居住者の現況調査⁵⁴⁾を行っており、同地区での建造物再生・再利用が居住者圧迫につながっていることをデータに基づいて批判している⁵⁵⁾。スタインブルックもこの調査に協力しており、強い問題意識を抱いていたと考えられ、それにより彼の運動の重心が居住者保護に移行したことが後年の述懐からわかる。

例えば、1978年10月のインタビューでは、パイオニア・スクエア地区における建造物の再生活動が革新的であったことを評価しながらも以下のように批判している。

「(建造物の再生・活用が低所得層の住民の排除につながったことについて) 私は常に建造物保全の持つそういった側面について憂慮している。他の面ではパイオニア・スクエア地区について喜ばしく思っているが、社会的側面についてはとても不本位だ。」⁵⁶⁾

さらに、1980年5月のインタビューでは自身の運動への評価として、コミュニティの活動の維持が依然として課題であるとことを述べている。

「多くの歴史的建造物が残され、パイオニア・スクエアが文化的性格を得たことに感謝している。しかし、私はただ建造物のみを維持したいのではなく、今存在し人々に利用されている場の維持が望まれる。」⁵⁷⁾

また、1984年の書簡には、これまでの保全運動を総括し、その目的が人々の保護であると明示している。

「パイオニア・スクエアでは、早期から歴史的建造物の保全を強く支持しながらも、私は常にスキッド・ロードの人々への福祉のために戦っている。」「我々のスローガンであった『マーケットを救おう』は、明らかに市場の都市における社会的・経済的・美的価値の維持を意味する。これは特に小規模事業者と低所得居住者の保護を含むものである。」⁵⁸⁾

他都市において歴史的建造物のアダプティブ・リユースが都市中心部の再生に有効であるという認識が広がり始めた1960年代後半⁵⁹⁾に、パイオニア・スクエア地区の状況を通して、シアトルの保全活動家は、それもまた地区高級化と都市内居住者の圧迫につながることを問題視し始めた。特にパイオニア・スクエア地区と同じく低所得層の居住地区であるマーケット地区では、より安定したコミュニティが形成されており⁶⁰⁾、その保全は居住の場としてのダウンタウンの社会的・文化的特質を継承していくためにも重要と考えられた⁶¹⁾。そのような地区高級化の進行とそれに対する批判を背景に、1960年代末の同地区の保全論争は一層社会的・福祉的性格の強いものになったと考察される。

6. まとめ

本論は、スタインブルックの著述・発言を中心として、コミュニティの社会的保全の考え方が形成された過程と背景を考察した。そこから明らかになったことを整理する。

シアトルの歴史地区において早期にコミュニティの社会的・経済

的特性の保全という理念が導入された社会的背景として、先行したパイオニア・スクエア歴史地区における地区高級化と既存住民の追い出しという状況があった。同時期にマーケット地区でも歴史的建造物のアダプティブ・リユースによる地区再開発計画が策定され、コミュニティの消失が拡大することを懸念した保全運動団体は、建造物という物的環境の保存よりも地区の経済活動や社会的構成といったコミュニティ特性の維持に重きを置いた議論を展開するようになった。このように、同地区の保全理念はスタインブルックの社会主義的・地域主義的思想を基盤とし、地区高級化進行への批判を契機として明確化されたと言える。

既往研究⁶²⁾ではパイオニア・スクエア地区とマーケット地区の歴史保全を同一視点で評価する傾向にあるが、当初経済活性化を主眼としていた前者とは異なり、後者には明らかに地区高級化防止に対する意思がみられ、短期間にそれぞれ異なる保全のあり方を提起したものであった。そしてその後になり、相互に補完しながら⁶³⁾同市の歴史地区保全事業を充実していったと言える。

最後に米国の歴史保全史の中での位置づけを考えてみたい。同国の歴史保全は19世紀後半から中流婦人の社会奉仕活動を核として、愛国心・郷土愛の高揚という教育目的から発展した。そのため、政治史・建国史に関わる歴史的建造物の選定・保存・展示が中心であったが、1960年代になり中心市街地再生策としての効果が注目されるようになった。1966年連邦政府の法的措置も伴い、歴史地区指定と建造物再生・再利用が全米の都市で展開された⁶⁴⁾。しかし、1970年代中期以降、そのようなアダプティブ・リユースによる不動産価値高騰によって起こる既存住民排斥、コミュニティの変質に対する問題意識が高まり、低所得層・少数民族居住区の維持という社会福祉的な施策が多くの歴史地区で検討されるようになった⁶⁵⁾。

そのような動きの中で、1960年代後半にシアトルのダウンタウンでは、2歴史地区の保全運動が同時並行で進んだことにより、その後全米各地の歴史地区において指摘される課題に短期間に直面することになった。それに対して、保全活動を進める建築家の地域特性・住民生活重視の思想を反映し、近隣地区保全を包括した特徴的な歴史保全のあり方を提起したと言える。

一方、1980年代以降、このような歴史保全の拡大と多様化による問題点も指摘されている。歴史保全は一般市民の社会活動の範囲を超え、住宅供給、福祉、住民参加等に関するより広範で高い専門性を必要とするようになり、人材不足が課題となった⁶⁶⁾。さらに、住民意思の尊重は、生活に密着した歴史保全を実現する反面、建造物の歴史的価値や復元の正確性等学術的な判断との乖離が生じる場合も多く、過度に過去を美化した復元や時代的混乱など、歴史的正確性の点での課題も指摘された⁶⁶⁾。

マーケット地区においても、コミュニティや商活動といった無形資源の時間的・質的变化への対応、地区内の社会的・経済的ニーズと歴史的正確性保持のバランスといった課題⁶⁸⁾について恒常的な論争が現在に至るまで繰り返されておられ、近隣地区保全の解釈や実務上の難しさを物語っている。

このように、1970年代初頭にシアトルの歴史地区で提起された保全理念は、歴史保全におけるコミュニティ特性保全という課題への視座を開くものであったとともに、米国の歴史地区保全の質

的転換の過程と課題を縮図的に示す例であると考えられる。

注

- 1) 現在の中心商業地区の南端に接する同地区は、1851年の入植以降開拓期の中心商業地区、及び労働居住区として発展した。1900年以降の中心商業地区の北部への移行、大恐慌を経て地区経済は著しく衰退し、低所得居住者のみが残る状況となった。
- 2) 現在の中心商業地区の北西に接する、1907年に開設された公設市場とその周辺地区である。農家と消費者とが直接取引する市場で、第二次世界大戦前はその規模、整った運営システムで国内でも注目された。しかし、第二次世界大戦中の日系農家の強制収容、戦後の保存・輸送技術の発展等によって市場の出店数、来場者数は大きく減少した。
- 3) Carlton, Knight: *Seattle: a City Where Preservation Is a Priority*, *Preservation News*, p.8, 1973.11; Delahanty, R. & A. McKinney: *Preserving the West*, pp.157-164, 1985等。また Chao, Julie: *Seattle's Landmarks Aren't All That Old, But City Isn't Either: It's Crazy about Preservation*, *The Wall Street Journal*, 1995.9.19は批判記事であるが、他都市に比較して歴史保全体制が充実していることを示している。
- 4) Peirce, Neal R: *Preservation that Values Buildings — and People*, *The Washington Post*, 1978.5.6; 同: *Seattle Does It Right*, *Seattle Post-Intelligencer*, 1978.5.11; Ford, Larry R: *Urban Preservation and the Geography of the City in the USA*, *Progress in Human Geography*, vol. 3 no.2, pp.211-238, 1979; Birch, E. & D. Roby: *The Planner and the Preservationist*, *American Planning Association Journal*, vol.50, pp. 197-204, 1984; Tyler, Norman: *Historic Preservation: an Introduction to Its History, Principals, and Practice*, W.W. Norton, pp. 22-23, 2000等
- 5) 米国の歴史地区保全を歴史的に論じた上記 Ford (1979) 及び Birch & Roby (1984); 英国との比較の中でその特徴を論じた Barthel, Diane: *Historic Preservation: Collective Memory and Historic Identity*, Rutgers University Press, pp.2-10, 13-34, 1996; シアトルの歴史保全史においてコミュニティ計画との一体性を示した Kreisman, Lawrence: *Made to Last*, Historic Seattle Preservation Foundation, pp.22-23, 1999等
- 6) 本論は、拙著: シアトル市の2歴史地区における保全運動とその論点、日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp.351-352, 2007、及び学位請求論文『歴史地区におけるコミュニティ保全思想の背景と意義』, 2008を基に抜粋・加筆したものである。
- 7) Shorett, A. and M. Morgan: *Pike Place Market: People, Politics, and Produce*, Pacific Search Press, 1982; 同: *Soul of the City: The Pike Place Public Market*, The Market Foundation, 2007
- 8) Brewster, Joyce S.: *Market Wars*, *The Weekly*, 1981.9.23
- 9) Lee, Sohyun P.: *From Redevelopment to Preservation: Downtown Planning in Post-War Seattle* (doctoral thesis in University of Washington), 2001
- 10) Lee (2001)は、当時の行政記録等を基に、「市民の勝利」と言われる2歴史地区の保全運動の意義を検証している。運動は住民意思の反映というよりは旧来の経済エリートと新興の文化エリートとの権力闘争ではあったが、同時に地区特性を尊重した都市政策への転換点となったことを論じている。
- 11) Lee (2001)の論文は政策転換に関する分析であり、保全運動団体と行政の保全論争にはほとんど触れていない。他に Morley, Judy M.: *Historic Preservation and the Imagined West*, University Press of Kansas, pp. 67-126, 2006 は2歴史地区の建造物保存上の問題点を指摘しているが、2地区の課題を一体的に論じており、各地区の特徴分析として十分ではない。
- 12) スタインブルックの自著(著書6、論文7、新聞記事149)、取材記事等における発言(マーケット関連論文17、新聞インタビュー記事105)、及びワシントン大学特別資料室に収蔵された自筆原稿20点(文書ファイル #1985, #3252, #3252-6より抽出)を検討対象とした。
- 13) 保全運動団体フレンズ・オブ・マーケットの記録文書から、声明25点、記者発表39点、発信書簡26点を抽出し検討対象とした。
- 14) Steinbrueck, Victor: *Seattle Architecture*, Reinhold Publishing, 1953
- 15) 上記の本はアメリカ建築家協会の全国大会がシアトルで開催されることを期にまとめられたもので、その他 *Architectural Record* 誌1953年4月号の記事 *Architecture of the Northwest* (pp.133-178)等の発信を通して、地域の独自建築への注目が集まった (Ochsner, Jeffrey K.: *Shaping Seattle Architecture*, p.xxxiii, 1994参照)。
- 16) 作品解説として 700Sq. Ft. House, *House & Home*, pp.112-115, 1952.8; Compact House with a Sense of Spaciousness, *Architectural Record*, pp.159-163, 1953.4等; 建築観を示す論説として Have We an Indigenous Northwest Architecture?, *Architectural Record*, p.145, 1953.4; Vieth, Thomas: Victor Steinbrueck, *Shaping Seattle Architecture* (Ochsner, Jeffrey K. ed.), pp.276-281, 1994等。
- 17) 地方紙 *The Argus* に1959.10-1962.8に連載された、地域の建築・景觀に関するエッセー。同記事内の開拓期の労働者住宅解説に見られる社会主義的視点に関しては、Ochsner, Jeffrey K.: Victor Steinbrueck Finds His Voice: from the Argus to Seattle Cityscape, *Pacific Northwest Quarterly*, vol.99 no.3, pp. 122-133, 2008が論じている。
- 18) Steinbrueck, Victor: *Seattle Cityscape*, p.28, 1962
- 19) Collin, Alf: Victor Steinbrueck- a Look Back at Him as a Teacher, *The Seattle Times*, 1976.7.18
- 20) 死(1985.2.15)の前年に書かれた書簡には彼の活動の主眼が「人間的価値」であることが特に強調されている(同書簡は、追悼記事 Human Value were First Concern of Architect Victor Steinbrueck, *Seattle Post-Intelligencer*, 1985.2.18に掲載)。
- 21) Steinbrueck, Victor: *Historic Preservation Viewed with Alarm, Innovations in Wood*, vol.III no.2, 1967(ワシントン大学特別資料室収蔵 ファイル#3252-6 Box3 Folder3内の校正原稿、出版年は推定)では、「歴史保全では、『古さ』は相対的なものである。西海岸の歴史は1世紀余にすぎず、多くの地域ではそれよりさらに短い。地域の歴史を示す建造物やエリアはまだ残っており、それらは我々の歴史と人間的価値を思い出させる意味を持つだろう。」と述べている。他にも *Everyday Architecture in the Puget Sound Area, Space, Style, and Structure* (Vaughan, Thomas. ed.), p.652-655, 1974; Concern about Historic Preservation in Seattle, 1976(ワシントン大学特別資料室収蔵 ファイル#3252-6 Box4 Folder4内の手書き原稿)等において同様の言葉を用いている。
- 22) McDonald, Lucile: *Preservation of 4 Old Buildings Urged*, *The Seattle Times*, 1960.10.2; Schear, Rill: *Architect has Kind Words for Fire-Station Designers*, *The Seattle Times*, 1963.4.7
- 23) Hutchison, Susan: *Advice on Pioneer Square Renovation*, *Seattle Post-Intelligencer*, 1969.2.28
- 24) ワシントン大学特別資料室収蔵文書ファイル# 1985、及びシアトル市公文書館収蔵“Pike Place Market”ファイル内のFOMの発信文書、書簡等の発信年月・発信先・主題の整理に基づく。
- 25) 上記資料内のFOM発信文書では、この期間はイベントの案内や出版活動など、市民への普及啓発を中心に活動していることがわかる。結果として、約5万人の署名を集め市の取り壊し計画を覆した。
- 26) 1968年3月以降の同上資料等では、市の計画への批判と保全対象拡大への主張が中心となっている。また、Shorett & Morgan (1982)、Brewster (1981) は、同月の市の最終計画案への対応についてFOM内でも意見の対立があり、組織的にも大きな転換があったことを示している。
- 27) 1970年初以降のFOM関連文書は、歴史地区登録に関する法的手続や係争などに関する市・州・連邦政府向けの発信文書が中心となっている。また、1971年5月以降は市民投票にむけての選挙運動に移行している。
- 28) Steinbrueck, Victor: *Seattle Cityscape*, University of Washington Press, p.114, 1962
- 29) Steinbrueck, Victor: *The Market Place*, *Seattle Post-Intelligencer*, 1965.12.26
- 30) Steinbrueck (1967) (注21, *Innovations in Wood*の記事)
- 31) City of Seattle: *Pike Plaza Redevelopment Project*, 1968
- 32) FOMの声明 Statement for Friends of Market Regarding Redevelopment Proposals, 1968.3.18、及びその基となったスタインブルックの書

- 簡 Statement Regarding Alternate Design Proposals for Pike Plaza Redevelopment Project, 1968.3.13 (ワシントン大学特別資料室収蔵ファイル#1985, Box2 Folder16)
- 33)上記声明文において、現在の農産市場として機能の重要性を主張するとともに、「文脈から切り離せば、目的を持って複合的に活動する生命体 (=organism) ではなく、過去のモニュメントになってしまう」と述べ、中核建造物と周辺地区との関連性と一体的保全の必要性を主張した。
- 34)Steinbueck, Victor: *Market Sketchbook*, University of Washington Press, 1968
- 35)上記著書発刊時のスピーチ原稿と推定される Steinbueck, Victor: *Market Sketchbook Brief* (ワシントン大学特別資料室収蔵ファイル#1985 Box3 Folder5 の手書き原稿) においてマーケットの存在意義として 7 項目に整理しており、この視点をより明確に示している。
- 36)Steinbueck (1968) 本文 9 頁目の解説文等。
- 37)Colorful Pike Place Market May Get Scheduled Facelift, *UW Daily*, 1968.11.7
- 38)Steinbueck, Victor: Pike Place Market vs. Urban Renewal, *Preservation News*, 1969.2
- 39)Hutchison, Susan: Pike Place Hurricane, *Seattle Post-Intelligencer*, 1969.3.13
- 40)Tanner, Elisabeth: Friends of the Market: Urban Renewal for Pike Place Wrong, *The Seattle Times*, 1969.4.3
- 41)Jones, Marjorie: Skid Road Renewal Seen as Aid to Business, not Residents, *The Seattle Times*, 1969.4.9
- 42)Steinbueck, Victor: A Man, a Market, & Mankind, *Queen City*, vol.1 No.6, 1969.6
- 43)スタインブルックは市場の周辺地区も含めた 17 エーカーを史跡登録するよう州政府に申請書を提出し、1970 年 2 月に一旦承認された。それに対して、シアトル市議会は市場中心建造物数棟を対象とした 1.7 エーカーへの縮小を決定し、州政府へ変更を申請し承認された。FOM はこの手続きの不当性を訴え、州・連邦政府等への請願活動、及び法廷闘争を展開した。
- 44)シアトル市の市民発議制度 (=Initiative) に従い、1971 年 11 月 2 日市議会選挙と同時に 7 エーカーの歴史地区設立への是非を問う投票が実施され、設立が決定した。
- 45)Pike Place Market Historical District Ordinance (No. 100475) 1971. 12.1、及び *The Guidelines: Pike Place Market Historic District*, 1974
- 46)Steinbueck, Victor: Seattle Public Market: to Be or Not to Be?, *Seattle Post-Intelligencer*, 1966.5.1
- 47)1963 年建築家アンダーセン (=Ralph Anderson) 等が地区内の建造物を買取り、修復して不動産価値を高め、新たなテナントに貸すという活動を始めた。この事業の成功によって、地区内の建造物所有者も参画するようになり、徐々に再生される建造物が増えていった。
- 48)Lee (2001) は行政文書を基に、市長と市議会の対立の状況、及び市議会が対抗措置として歴史地区保全の検討を始めた経緯を詳細に述べている。
- 49)1967 年にモデルシティ事業地区に指定され、行政、住民・事業者等が参画した検討会が設立され、そこで歴史地区登録への要望が出された。それに伴い 1968 年にスタインブルックに地区の建造物調査が委託された。
- 50)Kreisman (1999) p.15 では、登録当時「米国内で最も早く大規模な歴史地区の 1 つだった」と述べている。また、建造物群再生による地区活性化の成功については、The National Trust for Historic Preservation: *Economic Benefits of Preserving Old Buildings*, 1976; Carlton (1973); Delahanty & McKinney (1985)等に論じられている。
- 51)1969 年のダウントウン内の低所得居住者の実態調査記録 Olin, Laurie: *Breath on the Mirror: Seattle's Skid Road Community*, 1972 はパイオニア・スクエア地区の居住者が 1960 年から 68 年の間に激減 (59%減少: p.13 注 1, 原典は計画審議会資料) と述べている。また、Lee (2001) も pp.96-97 でセンサスデータから同様の状況分析を行っている。
- 52)Coffman, Larry: 'Human Renewal' is Key Part of Pioneer Square Project, *The Seattle Times*, 1967.7.25
- 53)例えば、Steinbueck, Victor: What's All This Fuss about the Market?, *Seattle Post-Intelligencer*, 1969.6.16; Jones, Marjorie: Skid Road Renewal Seen as Aid to Business, not Residents, *The Seattle Times*, 1969.4.9 におけるインタビュー; FOM の声明文 1968.12.10; 同報道発表資料 1969.3.12 等。また、マーケット地区の保全はアダプティブ・リユースの先例であるギラデリ・スクエアとは異なるものであるべきという FOM の主張が、Anderson, Julie: Saving the Market: What Went Wrong?, *Queen City*, vol.1 No.6, 1969.6; *The Seattle Times* の記事 Preciousness of Pike Market Stressed by Visiting Expert, 1969.4.19 等に見られる。
- 54)注 51 参照。居住者の構成、生活形態、行動範囲等を地図、スケッチ等を用いて現状と課題を示している。
- 55)Olin (1972) pp.44-45, 51
- 56)Collins, Alf: Victor Steinbueck: The 'Necessary Gadfly', *Seattle Post-Intelligencer*, 1978.10.15
- 57)Honig, Doug: Planning for Lovers and Friends: Victor Steinbueck on Livable Seattle, *Seattle Sun*, 1980.5.14 この後に、低所得居住者保護が彼の都市保全運動の焦点となったことを述べている。
- 58)*Seattle Post-Intelligencer*, 1985.2.18 (注 20 参照)。
- 59)1960 年代中期以降、サンフランシスコのギラデリ・スクエア (1964 年開業)、ボストンのファニユアルホール・マーケットプレイス (1966 年史跡登録) 等歴史的建造物の再生・機能転換による地区活性化成功が国内への普及につながった。
- 60)Olin (1972) p.22: Greenleigh Associations: *A Study of the Residents of the Pike Plaza Redevelopment Project Area* (シアトル市委託調査報告書), 1968.4 等
- 61)シアトルを始め西海岸の都市では、港湾周辺の工業地区と隣接する労働者居住区を核として都市が形成されたものが多い。これらの居住区は開拓期からの続く比較的安定したコミュニティを維持し、都市の文化的特徴を形成している場合も多く、そのため地区高級化による変質に対して否定的な見方も強い。郊外化によってダウントウンから中産階級が流出し、その結果として都市内居住地区の荒廃・スラム化が進んだ東部・中西部の都市とは異なる側面を持つと考えられる。
- 62)注 11 参照。
- 63)スタインブルックは、1960 年代前半のパイオニア・スクエア地区での歴史的建造物保存活動の進展が後のマーケット地区の保全運動の後押しとなったことを述懐している (*Seattle Post-Intelligencer*, 1978. 10.15)。逆に、1960 年代末の保全運動を通したコミュニティ尊重への世論の高まりを受け、1970 年代以降パイオニア・スクエア地区で低所得層保護の施策が徐々に強化されていった (同地区での官民の施策が段階的に変化していった過程については、Morley (2006) p.89 に解説されている)。
- 64)米国の歴史保全史については、西村幸夫: 都市保全計画, 東京大学出版会, pp.569-639, 2004; Murtagh, William J.: *Keeping Time (Revised Edition)*, John Wiley & Son, pp.25-77, 1997; Weinberg, Nathan: *Preservation in American Towns and Cities*, Westview Press, 1979 等参照。
- 65)前出の Peirce (1978)、Ford (1979)、Birch (1984)、Weinberg (1979) 等がこのような米国の歴史地区保全の変化を指摘している。
- 66)このような課題を受けて、全米各地の大学に歴史保全の専門教育プログラムが設けられるなど、人材育成が進められた。
- 67)例えば、Relph, Edward: *The Modern Urban Landscape*, The John Hopkins University Press, p.223, 1987 は 1970 年代以降の歴史保全について「過去の再生・保存ではなく、あってほしい過去のイメージの選択であった」と批判している。Barthel (1996) は、都市内コミュニティ保護の包括は米国の歴史保全の特徴であることを示すとともに、住民意思を反映することによって生じる学術的観点での問題を指摘している。
- 68)コミュニティ・商活動の維持・保全上の課題については、City of Seattle, *A Decade of Change*, 1983 からその概要が把握でき、詳細は 1971 年以降の地方紙記事から知ることができる。建造物保全上の課題については、拙著: シアトル市パイク・プレイス・マーケット歴史地区の建造物群保全における課題, 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp.361- 362, 2009 等参照。

(2011 年 3 月 24 日原稿受理, 2011 年 6 月 27 日採用決定)